

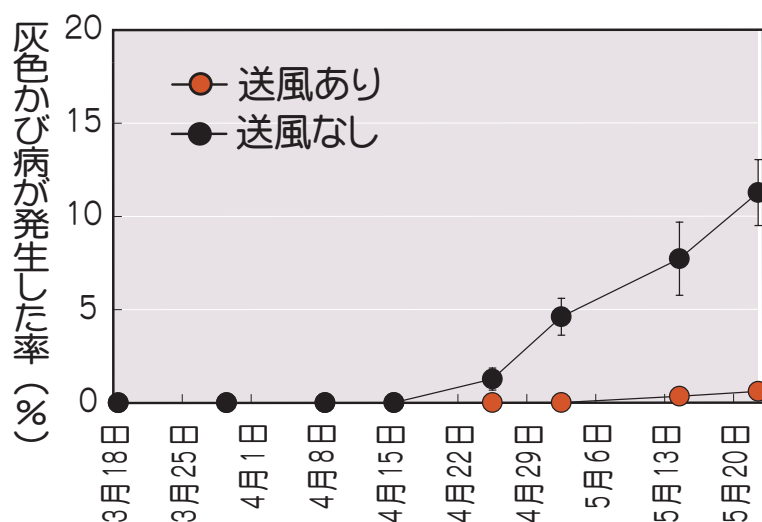
# 循環扇による送風でトマトの灰色かび病を減らす!

- トマト灰色かび病は作物に水滴がつく95%以上の湿度が5時間続くと発生することがわかっています。
- 促成栽培トマトで循環扇送風を行うと、生育・収量に悪影響を与えずに、灰色かび病の発生を抑制できることがわかりました。
- 送風による除湿効果はありませんが、作物表面の水滴を除去することが、灰色かび病抑制のメカニズムだとわかりました。

## 循環扇による送風



## 灰色かび病の抑制には送風が有効です!



## 循環扇の送風で果実表面はさらさらです!

	送風 あり	送風 なし
株内の風速	0.3~0.9メートル	0.1メートル以下
トマト株内平均湿度	84.8パーセント	85.3パーセント
早朝の果実表面の水滴量	0.8ミリグラム	2.5ミリグラム
早朝果実の結露状態	さらさら	べとべと

👉 送風で灰色かび病を減らすには、0.3~0.9メートル程度の風速（煙が60°傾く風）が必要で、循環扇を15~20m間隔で設置する必要があります。